

大分県要約筆記サークル

# 陽ざしの会

第 76 号

発行日 平成 27 年 3 月 21 日

発行所 大分県要約筆記サークル

「陽ざしの会」

発行者 森崎 裕香子

事務局 野上 千賀子

(Tel.097-532-6850)

(HP <http://hizasi.web.fc2.com>)

## 会員が一丸となって

平成 26 年度役員より

「フキヨク」 「フキヨク」 「フキヨク」 「フキヨク」

### 会長 森崎 裕香子

家の窓から 1 本の杭がみえます。高さが 50cm 位で、窓から近い位置に立っています。その杭に、いろんな鳥が飛んできて止まります。短い間であるが見ていて楽しいです。居ながらにして季節の自然を感じられることにある種の贅沢を感じています。



最近、大きな会場で要約筆記を見ることがあります。長い時間、見続けることの大変さなどを実感しました。今まで支援する側からだけ見ていたのではないかと気づかされました。

相手の立場で考えるのは非常に難しい事だと思います。私も自分で相手の事を考え、それが相手の立場と思いこんでいた部分が随分あります。当事者自身の気持ちを考えてみるのが支援者として大事なことではないかと改めて感じています。

終わりにになりましたが、今年度も会員の方々は元より関係機関の方々にご支援、ご助力をいただきありがとうございました。

### 事務局 野上 千賀子

5月の障害者スポーツ大会から始まり、8月のモバイル講演会、10月のバスハイク、12月の試験対策学習会、そして3月の会員交流会、これら大きな行事にはさまって、毎月の学習会、広報紙作り、HPのアップ、ブログの更新など実にさまざまな活動を行っている陽ざしの会です。これも56名の会員が、それぞれの個性を発揮して活躍して下さるおかげだと思います。

今後も引き続き、それぞれが忙しい生活の中、会の活動に少しでも時間を割いてくださいますようお願いいたします。

手書き研修部 朝山 美果

手書き研修部の部長をさせていただいてから1年がたとうとしています。

早かったような遅かったような。

最初はいろいろ不安もありましたが、研修部のみなさんに支えられてここまでこれたと思います。

研修部ひとりひとりの力を合わせ、学習会を組み立てていき

さすが！！と思わせるバラエティに富んだ教材。様々な視点での教えられた学習会が開かれていきました。これは、1人で考えたり、誰かに任せっきりではつまれなかったと思います。

特に、みんなのアイデアから実現した中津要約筆記「まなざし」さんをお招きしての交流学習会は日頃の学習会とはまた違った刺激となりました。

心強く支えてくれた部員のみなさん、それに温かい協力をしていただいた会員のみなさんに感謝申し上げます。



会計 間藤 勝美

「母国語をよくしない人にはよい通訳はできない」の通訳者の語りに、「日本語を識らずして日本語は書けない」を再認、日本語再修の[年]です。

2年間お世話になりました。

パソコン研修部 平野 美佐子

今年度も手書き・パソコン研修部が合同で技術力・要約力のアップを目指し、部員が学習会を計画、実施しました。

また、午前のパソコン学習会も充実したものとなりました。

ご協力ありがとうございました。

企画部 久保田 安紀



今年度は「秋の交流会県北バスハイク」を企画し、たくさんの方に参加をしていただきありがとうございました。まだまだ反省点もありましたが次年度以降の企画に生かしていけたらと思います。

今後とも企画部へのご協力をお願いします。

広報部 三重野 真由美

皆様のご協力のもと、今年度も、年3回無事発行することができました。急な原稿依頼にも応えていただき、さすが要約筆記サークル「陽ざしの会」会員のみなさま！感謝でいっぱいです。

支えてくださった素晴らしい広報部員の方々のおかげで3年間楽しく広報紙を作成することができました。

本当にありがとうございました。

副支部長 宇都宮 和代

昨年は人工内耳友の会 [ACITA] の正式な立ち上げ（設立）がありました。

陽ざしの会の皆様にとっては、情報保障の依頼がいつもの年にも増して多く混乱させたかも知れません。

年間行事に加え、役員会も幾度となく、お願いを申しました。

その度にならぬ笑顔で対応して下さいまして、誠にありがたく感謝申し上げる次第でございます。

難聴者の要約筆記は、ひどく字画数の多い言葉や専門用語、特殊な医学用語が出てくるので、気の毒でありませんが、私達難聴者にとっては、無くてはならない、聞き取りの最終手段でありますので、どうか、今年も御迷惑をおかけすると思いますが、宜しくお願い致します。

さて、昨年 12 月 14 日には、クリスマス会にお運び下さいまして、ありがとうございます。その上、手話コーラスをして欲しいなんて無理なお願いもさせていただき、とても楽しいクリスマス会が出来ましたのも、ひとえに陽ざしの会の方々が、当日までに工夫されてよく練習されていたものと察し致します。

人工内耳 [ACITA] は幼児から小学生、成人に渡る年齢層が深いので、皆が一致するのは、大変むずかしく、様々な問題点もありますが、まだ正式設立から 1 年未満でもありますので、今後も何とか工夫を重ねつつ、陽ざしの会のお力をお借りしながら、良い組織作りをしたいと考えております。

「♪～真っ赤なお鼻のトナカイさんは いつもみんなの笑いもの～♪」  
何十年ぶりでしょうか。

クリスマスソングを歌ったり、サンタ帽を頭にのつけたのは。

12 月 14 日、人工内耳友の会 [ACITA] 大支部、大分県難聴者協会、要約筆記サ-  
ざしの会」の合同クリスマス会が聴障センターでありました。モビール作り、ゲームや手話コーラスなどを通じて 3 団体の親睦会。陽ざしの会は手話コーラスの担当です。

事前にクリスマスソング 3 曲の歌詞を用紙に書き、手話の練習をして、いざ本番。応援団長は M さん。N さんのパネルシアターで開幕。子どもにウケたのは動物当てクイズ。手話コーラスは M、O、U、N さん、歌詞をめくったのは K さんと I。あっという間の 20 分。

子どもたちと一緒に手話コーラスを楽しむには、課題もありましたが、ペンやパソコンと離れ、参加者と向き合い表現したことはプラスでした。

モビール作りの材料そろえ、おやつ準備など、お世話くださった方々、ありがとうございました。

(池邊 恵子)



クリスマス会なんて久しぶり！

大人ばかりの我が家では、もうないイベントです。

プレゼント交換用のプレゼント探しもあれこれ考えて楽しい時間でしたし以前、バスハイクで一緒だった、ACITAのお子さん達の元気な姿をみることもできました。

みんなでクリスマスの飾りを作ったり、「陽ざしの会」で手話コーラスを歌ったり、ケーキを食べ、ゲームをして点を競ったりと、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

家に帰ってみんなにプレゼントを見せびらかし、楽しかった話をしました。準備はとても大変だったことと思いますが、また、来年もみなさんとクリスマスを楽しみたいと思いました。

(梅崎 照美)



## 新年会(大分県難聴者協会主催)に参加して

恒例の大分県難聴者協会の「新年会」が、平成27年1月25日11時30分から、大分市都町の「天まで上がれ」で行われた。

当日は、協会の会員、「陽ざしの会」のメンバー等大勢の方が出席し、例年に無い賑やかな集まりとなった。

盛り沢山の料理を賞味しながら、幹事の麻生さんの司会で、「自己紹介やトピックス」などのスピーチが、順繰りに行われた。

特に、高齢の内林さんや保原さん、高橋さんの「生き生きとした暮らし振り」に参加者全員が感銘し、元気をもらったようだ。安部さんの息子さんもお元気で活躍とのこと。また、「協会」に本年度、新たに加入された宇都宮さんと佐藤さんの挨拶もあり、お互いを知り合うよい機会でもあった。相互の理解を深め、互いが持つ悩みを共有し、「協会」の会員の方々と要約筆者の「絆」を強める良い機会ともなった。

その後、小倉事務局長から「全難聴」の中央をはじめ、各地区の活動状況や人事の話、「補聴器」や「聴覚障害者災害時ステッカー」(県難聴協企画)の説明もあり、場も大いに盛り上がり、制限時間の15時まで、多くの参加者が楽しくかつ有意義な時間を持てたようだ。(望月)



### ぶんどご梅

今年も(まめ)で

青木 奈津子



「いい歳をして、それぐらい自分でつくりなさいよ」  
母の声は怒ったような、あきれたような、それでいてうれしそうに聞こえるのは気のせいではないかと思っている。おせち料理の黒豆煮の話である。

今年の年末年始は数年ぶりに親子3人、大分で過ごすことになり、メニューを考えながら食料品買い出しリストを書いてみた。

「やっぱり大晦日の夜はお蕎麦がいるし、こんにやくも食べないと(私の実家では、一年の厄を体から出すと言って必ず大晦日にこんにやくを食べる)。お正月からいきなりカレーや鍋物ばかりはちよつとなあ」

三が日くらいはお正月らしいものをお願い、筑前煮と簡単な煮しめは作る。お雑煮の具材も忘れずに。田作りや栗きんとん、かまぼこはスーパーで買う。黒豆煮は・・・私は母の作った黒豆煮を送ってもらう為に電話を掛けた。その返事の第一声が「いい歳をして」。

母の黒豆煮は柔らかすぎず、甘すぎず少し塩分をきかせた味付で、これを食べるとお正月を実感する。

「お母さんのじゃないと黒豆煮を食べた気がしないし、○○(私の娘の名)も好きだから」と弱点をつくくと、母は「他に何か送ってほしいものがあるのか」と聞いてきた。お赤飯、干し柿(父が毎年作る)、あご野焼(トビウオのかまぼこ)・・・と続ける私。

年末に届いた小包には、望みの品が娘へのお年玉と共に詰められていた。

お礼の電話をし、「私へのお年玉が入ってなかった」と言うと、材料費と光熱費・手間賃を請求すると返ってきた。こんな会話が出ることを改めて嬉しく思い、今年一年皆が「まめ(健康)」で過ごせるように祈った。

ぶんどご梅は創刊以来続いている会員のエッセーです。

## 平成26年度第2回登録要約筆記者研修会

平成27年1月11日(日)、平成26年度第2回登録要約筆記者研修会が、大分県聴覚障害者センター研修室にて午前10時から午後3時まで開催されました。「陽ざしの会」20名、「陽だまりの会」2名、平成26年度大分市要約筆記者養成講座修了生4名、合計26名の参加でした。

午前中は、派遣に関わる留意点の説明やお願い、報告書の書き方や提出期限の厳守、新しい登録証の配布、守秘義務についての意見交換、事例検討などを中心に進行されました。

午後からは、手書き・パソコンと別れ、学習会が行われました。パソコンの学習会では、他県を参考に前ロールの作成を行い、実際に作成したものをスクリーンに表示させました。ルビの位置や助詞で改行するなど作成方法が違うだけで、スクリーンに表示される文章の印象が変わってくることを実感しました。また、2人でペアを組み、要約することの出来ない俳句・詩・歌詞などを入力する練習をしました。俳句や詩などは、漢字が分からずひらがなばかりで読みにくくなったり、聞き間違いをして全く違う言葉を書いたりして、知識の引き出しを増やす努力をしていかなければいけないなと思いました。歌はなんと昨年大流行した「レット・イット・ゴー～ありのまま～」で、最後は楽しく、充実した勉強会でした。(安藤)



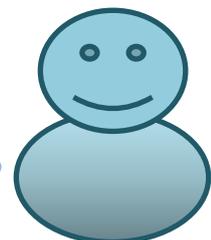
～研修会に参加して 神田 れい子～  
1月11日、26年度第2回要約筆記者登録研修会が聴覚障害者センターであった。

午後の手書き研修会では、池邊さんが講師をされ、まず前ロールの書き方について他県との比較、そして、引き方の実習にはいった。

一番わかり易く見える引き方はどれか。1行引き、2行引き、何行目で見せるのが

よいか、引くスピードは等々。いつもは書く立場だが、今日は見る立場で検討した。

次に二人書きの練習をする。俳句、短歌、歌詞と段々書く量が増え、最後は皆一言「難しい！」二人書きで一番大事なことは、文字を揃えることだそう。ひらがなが多いとわかりづらく意味がとれない。内容を理解していないと書けない。歌詞は正しく伝えるなどの意見がでた。漢字を覚える、知識を広げる、正確に伝えることは、やはり、日頃の勉強のようだ。日々の積み重ねが大事だろう。



# 新人さんいらっしゃ〜い



平成 26 年度要約筆記講座を修了したメンバーの中から陽ざしの会に新人さんが入会されました。パソコンを修了した方々です。自己紹介文を書いてもらいましたので、ここにご紹介します。

名前：南波 史恵(ナンバフミエ)  
趣味：読書  
要約筆記をはじめたきっかけ：職場の会議で筆談担当になったことです。  
職場では、『要約筆記』というものは浸透しておらず、筆談と呼ばれています。  
勤務歴や知識に関係なく、研修などでノートテイクを任されます。  
基礎的なことを知りたくて講座を受講しましたが、予想以上に内容が濃厚でびっくりしました。  
今後、少しずつでも職場に広めていきたいです



名前：白石麻那美(シライシマナミ)  
趣味：映画鑑賞  
要約筆記をはじめたきっかけ：仕事で大分市の市報を見た時に講座の募集を見つけたのがきっかけです。要約筆記ってどんなのだろう、面白そうだな、やってみようと思っただけでした。  
講座を受講していくと内容がとても本格的で驚き、戸惑いました。  
せっかく講座を修了したので、自分が出来る範囲で活動していけたらと思います。



陽ざしの会の歩み⑬号までは、陽ざしの会の成り立ちを書いて来ました。会の発足後の困難さ、何もかもゼロからの出発で、毎日が試行錯誤の連続でした。その後、やっと会の組織とその目標のもと、会員たちの真剣な努力によって、活動の内容が高められ、又、皆さんの心情や結束によって、会が成り立って来ました。会の発足後、五年を経てやっと軌道に乗ってきたかと思われたのが、現在発行されている、第七十五号に記載されている内容です。

今後は、年度毎に活動の内容も活発となり難聴者、中途失聴者の人数も増加、平成八年には、「第五回全国難聴者福祉会」を、大分難聴者協会の主催で開催され、私たち陽ざしの会員も共に協賛しました。

陽ざしの会が設立されたきっかけは、会の歩み①にも書きましたように、難聴者協会の主催で講座が開催されたのですから、いかに協会の方々が、要約筆記者を切望されていたかと言うことを思います。ですから、当初に戻って、難聴者協会の皆さんと、私たち要約筆記者との、接点を次回から書きます。

「陽ざしの会の歩み」⑭



## 会の運営 (その4)

児玉 幸代

# 要約筆記の勉強部屋 Part IX

## ～筆子の覚書～

2015年2月22日(日)、無事に第4回全国統一要約筆記者認定試験が行われました。前年度よりわかり易かった、という印象はありましたが、「こうきたか～」と思う問題もあり、まだまだ傾向がつかめません。

筆記試験においては時間不足感が強く、試験官の「あと20分です。」の声に「え～！まだ全部書き終わってない！時間が足りないよ～」と焦ってしまいました。あのボリュームですから、せめて100分は欲しいところです。もしくは利用者への対応問題以外は、マークシートにしてくれないかしら・・・



では、今年の問題の特徴をみてみましょう。

### 聴覚障害の基礎知識

今年もオーディオグラムでしたが、ひねりあり(笑) 右耳と左耳の聴力を測定した図がでて、その計算式はどれか、を選択し、実際の聴力を計算して身体障害者手帳の等級が何級かを選ぶ問題でした。計算式は知っているものの、実際に計算したことがなく、はたして結果があっていたかどうかは自信がありません。ちゃんと計算してみて、等級がどう決まるのかを確認したほうがいいですね。

### 社会福祉の基礎知識

昨年に引き続き、「障害者権利条約」の問題がでました。批准への流れは、しっかり押さえておきましょう。「障害者総合支援法」ですが、その特徴についての問題がありました。障害者の定義に難病等を追加し、平成26年4月から、重度訪問介護の対象者の拡大、ケアホームのグループホームへの一元化が実現したことなど、自立支援法との違いを押さえておきましょう。



今年の特徴としては、「障害者差別解消法」でした。これも新しい法律で、2013年6月制定、2016年4月施行されます。権利条約批准の流れで制定された法律なので、来年度も引き続き出題される予感がします。しっかりと内容を頭に入れておきましょう。



### 要約筆記の基礎知識

今年の利用者への対応の問題は、素直じゃないなあ、という印象でした。1問目は、はじめて利用される方の病院でのノートテイク。待合室で、利用者が自分のことや愚痴など話し始め、呼び出しが聞こえづらくなるからと、少し静かにしてもらえよう頼んだら、利用者から「看護師に直接呼びに来よう頼んできて」と言われ、頼みに行った、という場面でした。問題文の中にキーワードは何点かありましたが、100文字という文字数に圧倒され、残り時間が少ない中で、100文字も書いている時間がない、というのが正直なところ。これに時間をとられた人もいたようですが、私は一番後回しにしてしまいました。



2問目は、大会派遣の休憩中に聴覚障害の方から、車のキーを無くしたので、全体投影してほしいと頼まれた、という場面。A、B、Cと3つの対応が書いてあり、そのどれも問題があるので、どこがいけないのか、30文字以内で書きなさい、というもの。Aのみ例文が書いてありましたが、最初意味が分からず、何度も問題を読み、しばらく考え込んで、ようやく意図がつかめました。これも「臨機応変」「問題解決力」という対応の在り方を問われていたのでしょうか・・・？



## 1月の学習会より

### 共通

財前 悦子

私は手書き学習会に参加しました。前半は2枚のプリント、後半は日本保健医療大学教授 熊坂隆行氏の講話「動物を介在した看護ケア」の要約でした。プリントの内容は

- ①重複表現を避ける
  - ②二重否定を肯定文に
  - ③あいまい表現を断定に
  - ④＜省略できないあいまい表現＞確率が低い場合
- ①の内容で「犯罪を犯す→罪を犯す」が正解ですが、現在辞書を見ますと「犯罪を犯す」で載っています。これは意味を強める為ではないかと思えます。また「ふたたび再婚する→再婚する」が①の意味でいえば正解なのですが、取り方によっては「再再婚」とも考えられるという話になりおもしろかったです。

後半の要約の練習は、最初にプリント2枚が配布され、そこには写真と図1～7に内容が書かれています。今、介護の現場でもよくアニマルセラピーの話がでます。そのことに関しての講和でしたが、話を聴き、プリントを見るという行為に思うように手が動かず、自分で何を書いているのかわからなくなりました。

勉強していく度に、漢字を知らない、要約が出来ない、字が汚い等つくづく感じます。これからもマイペースで少しずつ勉強していこうと思います。

### 無線 LAN 学習会

仲摩 由美子

Wi-Fiという言葉を見たり聞いたりしたことはありませんか？

無線 LAN と Wi-Fi ってどう違うの？わかっているようで・・・から始めました。

今回の学習会は無線 LAN ルータを使って IPtalk による情報保障です。

まずは、インターネットアクセスで接続設定ができれば、IPtalk を立ち上げ「パートナー」画面で IP アドレス「192.168・・・」確認します。「メンバーを探す」でメンバー表示に全員繋がっていることを確認します。今回は何もトラブルなく全員（7人）が繋がって表示パソコンも問題なく繋がりました。

次は IPtalk の「表示3」を設定することで携帯にも繋がりました。携帯は iPhone (ios) の携帯だけでなく android にも繋がることがわかりましたが、携帯がどこまで繋がるかお試しをしたら、センター内だと大丈夫でした。そして、画面の大きな iPad を使うことで手軽に利用できると思います。

後で分かったのですが、android の携帯は繋がらない場合もあります。なぜ繋がらない？これは今後の課題ですね。最近の施設では無線 LAN ルータが設備していますので、電波干渉が想定され繋がらないトラブルが起こることもあります。その時は施設との対応になるでしょう。今後いろんな場所で経験を積み重ねていくことで場面にあった情報保障ができるのではないのでしょうか。そして利用の仕方も個人で選択できるようになるといいですね。しばらくは、無線 LAN を使って情報保障をするときは、いつでも有線 LAN に切り替えができる準備をする必要があると思います。

8月に「パソコン要約筆記技術習得講習会」佐藤先生の～モバイル機器を使った情報保障～研修会で無線 LAN を使うと便利だ！！とわかっていてもできていませんでした。今回の無線 LAN 学習会を機会に引き続き学習会を積み重ねて情報保障ができるようにしたいです。

今年度もイオン・イエローシートキャンペーンにご協力をいただきありがとうございました。詳細は次号でご報告いたします。

平成27年度総会は4月18日（土）です。

### 編集後記

健康に気を遣い始めたこの頃（遅い？）・・・これがいい、あれがいいと TV 番組で紹介されるけれどなかなか続かない。最新では、えごま油がいいと聞いたがどこも完売。注文していたのがやっと届いたが・・・あれ？何によかったっけ？